

---

秋田公立美術工芸短期大学の4年制大学化  
検討に関するアンケート調査  
集計結果報告

集計・分析：(財)日本地域開発センター

# 目次

1－1. アンケート実施概要	1-1
1－2. 美術系大学を取り巻く環境の検証	1-2
2－1. アンケート集計結果報告	2-1
3－1. 調査結果の総括	3-1

## 1-1. アンケート実施概要

---

秋田公立美術工芸短期大学に入学実績のある高等学校のうち、北海道及び東北6県に在在する300校を対象に本校の4年制大学化に関するアンケートを実施した。

アンケートの質問内容の概要は次の通りである。

### 1. 進路全般に関する項目

- ・ 在学生徒数
- ・ 希望進路

### 2. 美術系4年制大学及び短大への進学希望者に関する項目

- ・ 入学実績の動向
- ・ 本年度の志望者数
- ・ 進路志望の傾向

### 3. 秋田公立美術工芸短期大学に対する評価

- ・ 進路指導の視点から見た評価
- ・ 進路指導における本学の位置付け
- ・ 4年制大学化に関する評価
- ・ 進路指導において必要な情報提供
- ・ 4年制大学化に関する意見

## ■アンケートの実施時期と実施規模

配付時期 : 平成22年12月04日各高等学校に送付

回収期限 : 平成22年12月22日締切

(12月28日に未回答の高等学校にアンケートの協力を電話で要請)

アンケート対象 : 秋田公立美術工芸短期大学に入学実績のある北海道及び東北6県に在在する高等学校300校

(回答者として進路指導教諭又は美術教諭を指定)

サンプル数及び、回収率 : 下表の通り

	配付数	回収数	回収率
	(通)	(通)	
総数	300	162	54%

一般に行われる郵送配布、郵送回収によるアンケートの回収率は、20%から30%が標準的な割合である。今回のアンケートの回収率54%は同様のアンケートとしては高い数値の回収率を示している。

また、設問によっては、未回答の項目があるため、集計結果のパーセンテージが100%に満たない場合がある。

---

## 1-2. 美術系大学を取り巻く環境の検証

アンケート調査結果の実施にあたって、美術系大学を取り巻く環境の検証を行う。

### (1). 人口減少

北海道及び東北地方の0歳～19歳の将来人口は、人口問題研究所による推計では、急激な減少となることが示されている。

北海道地域では、平成17年(2005年)1,013千人の人口が、20年後の平成37年(2025年)に625千人、30年後の平成47年(2035年)に507千人まで減少する。東北地方では、平成17年(2005年)1,854千人の人口が、20年後の平成37年(2025年)に1,194千人、30年後の平成47年(2045年)には996千人までに減少する。

平成17年の人口を100とした場合、平成47年には全国で59.9迄減少し、同様に北海道地方では50.1、東北地方では53.7まで減少する。

秋田県では47.5まで減少すると推計され、全国平均を大きく上回るペースで0歳～19歳の人口が減少すると推計されている。

### 将来の地域別0-19歳人口推計

今後の我が国の若年層人口は、総人口以上のペースで減少し、平成42年には、17年の水準の64%に下がる。もっとも減少する北海道が55%であり、東京は76%に減少。

	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)
人数(単位:千人)							
北海道	1,013	901	803	710	625	560	507
東北	1,854	1,659	1,489	1,331	1,194	1,087	996
北関東	1,372	1,262	1,156	1,038	930	848	788
南関東	4,101	3,906	3,636	3,284	2,938	2,687	2,529
東京	2,014	1,984	1,919	1,801	1,657	1,522	1,434
甲信越	1,055	966	874	778	698	639	595
北陸	593	548	501	447	399	365	341
東海	2,964	2,801	2,614	2,373	2,148	1,990	1,888
京都・大阪	2,153	2,029	1,878	1,677	1,496	1,363	1,274
近畿	1,854	1,719	1,579	1,412	1,261	1,154	1,079
中国	1,463	1,343	1,230	1,104	988	903	840
四国	752	682	618	549	487	441	405
九州	2,991	2,741	2,525	2,307	2,105	1,943	1,810
全国	24,178	22,542	20,823	18,810	16,925	15,502	14,486
平成17年の人口を100とした場合							
北海道	100.0	89.0	79.3	70.2	61.7	55.3	50.1
東北	100.0	89.5	80.3	71.8	64.4	58.6	53.7
北関東	100.0	92.0	84.3	75.7	67.8	61.8	57.5
南関東	100.0	95.2	88.7	80.1	71.6	65.5	61.7
東京	100.0	98.5	95.3	89.4	82.3	75.6	71.2
甲信越	100.0	91.5	82.8	73.7	66.2	60.6	56.4
北陸	100.0	92.4	84.6	75.4	67.2	61.5	57.5
東海	100.0	94.5	88.2	80.1	72.5	67.1	63.7
京都・大阪	100.0	94.3	87.3	77.9	69.5	63.3	59.2
近畿	100.0	92.7	85.2	76.1	68.0	62.2	58.2
中国	100.0	91.8	84.1	75.5	67.5	61.8	57.4
四国	100.0	90.7	82.2	73.0	64.7	58.6	53.9
九州	100.0	91.6	84.4	77.1	70.4	65.0	60.5
全国	100.0	93.2	86.1	77.8	70.0	64.1	59.9

国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19年5月推計)結果表・表3(1)を基に作成(出生中位・死亡中位で仮定)

出典：中央教育審議会大学分科会(第78回、平成21年4月14日)資料2-2「大学の量的規模等に関連する資料」

### 将来の秋田県の0-19歳人口推計

	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)
0歳～19歳人口(千人)	198	173	151	131	116	104	94
平成17年を100とした場合	100.0	87.4	76.3	66.2	58.6	52.5	47.5

※ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19年5月推計)結果表・表3(1)を基に作成(出生中位・死亡中位で仮定)

## (2). 大学をはじめとする高等教育機関の学校数動向

平成元年以降、大学数は増加している。短期大学は一様に減少を続けている。

大学は平成元年（1989年）499校から増加を続け、平成22年（2010年）には778校を数えている。一方、短期大学は平成元年（1989年）584校あったが、平成8年（1996年）598校をピークに減少を続け、平成22年（2010年）には395校となっている。また、専修学校は、平成10年（1998年）3,573校をピークに減少を続け、平成22年（2010年）には3,310校となっている。

年号	高等専門学校	短期大学		大学		専修学校		西暦	短大・大学計
		学校数	前年比増減数	学校数	前年比増減数	学校数	前年比増減数		
平成元	62	584		(1) 499		3,254		89	1083
2	62	593	9	(1) 507	8	3,300	46	90	1100
3	63	592	-1	(1) 514	7	3,370	70	91	1106
4	62	591	-1	(1) 523	9	3,409	39	92	1114
5	62	595	4	(1) 534	11	3,431	22	93	1129
6	62	593	-2	(1) 552	18	3,437	6	94	1145
7	62	596	3	(1) 565	13	3,476	39	95	1161
8	62	598	2	(1) 576	11	3,512	36	96	1174
9	62	595	-3	(1) 586	10	3,546	34	97	1181
10	62	588	-7	(1) 604	18	3,573	27	98	1192
11	62	585	-3	(1) 622	18	3,565	-8	99	1207
12	62	572	-13	(2) 649	27	3,551	-14	2000	1221
13	62	559	-13	(2) 669	20	3,495	-56	01	1228
14	62	541	-18	(2) 686	17	3,467	-28	02	1227
15	63	525	-16	(2) 702	16	3,439	-28	03	1227
16	63	508	-17	(4) 709	7	3,444	5	04	1217
17	63	488	-20	(4) 726	17	3,439	-5	05	1214
18	64	(1) 468	-20	(4) 744	18	3,441	2	06	1212
19	64	(1) 434	-34	(5) 756	12	3,435	-6	07	1190
20	64	(1) 417	-17	(6) 765	9	3,401	-34	08	1182
21	64	(1) 406	-11	(6) 773	8	3,348	-53	09	1179
22	60	(1) 395	-11	(6) 778	5	3,310	-38	10	1173

- (注) 1 国・公・私立の合計数である。  
 2 本校・分校の合計数である。  
 3 「大学」は新制大学のみである。  
 4 ( )内の数値は通信教育のみを行う学校数で別掲である。  
 5 平成22年は速報値である。以下同じ。

データ出典：文部科学省「平成22年度学校基本調査」を基に編集作成

### (3) 北海道・東北地方における美術系高等教育機関の現状

北海道・東北地方において、美術・デザイン関連を学べる大学は14校、短期大学は3校、専門学校は5校ある。その内、美術系大学は4校あるが、3校は北海道に所在し、東北地方には山形県にある東北芸術工科大学の1校のみである。また、公立の美術系大学は北海道にある札幌市立大学(デザイン学部)のみで、東北地方にはない。

	大学	短期大学	専門学校
北海道	<b>【美術系大学】</b> ●公立 ・札幌市立大学(デザイン学部) ○私立 ・道都大学(美術学部) ・東海大学(旭川 芸術工学部)	<b>【美術系短期大学】</b> ○私立 ・札幌大谷大学短期大学部(美術科)	・札幌デザイナー学院 ・北海道造形デザイン専門学校 ・北海道芸術デザイン専門学校
	<b>【教員養成等関連大学】</b> ●国立 ・北海道教育大学(教育学部) ○私立 ・北翔大学(生涯学習システム学部)		
青森県	<b>【美術系大学】</b> なし		
	<b>【教員養成等関連大学】</b> ●国立 ・弘前大学(教育学部)		
岩手県	<b>【美術系大学】</b> なし		
	<b>【教員養成等関連大学】</b> ●国立 ・岩手大学(教育学部)		
宮城県	<b>【美術系大学】</b> なし		・仙台デザイン専門学校
	<b>【教員養成等関連大学】</b> ●国立 ・宮城教育大学(教育学部) ○私立 ・東北生活文化大学(家政学部) ・東北工業大学(ライフデザイン学部)		
秋田県	<b>【美術系大学】</b> なし	<b>【美術系短期大学】</b> ●公立 ・秋田公立美術工芸短期大学	
	<b>【教員養成等関連大学】</b> ●国立 ・秋田大学(教育文化学部)		
山形県	<b>【美術系大学】</b> ○私立 ・東北芸術工科大学		・山形デザイン専門学校
	<b>【教員養成等関連大学】</b> ●国立 ・山形大学(地域教育文化学部)		
福島県	<b>【美術系大学】</b> なし	<b>【美術系短期大学】</b> ○私立 ・郡山女子大学短期大学部(生活芸術科)	
	<b>【教員養成等関連大学】</b> ●国立 ・福島大学(人文社会学群)		

## 2-1 アンケート集計結果報告(詳細)

### 0 : フェイスシート

#### (1) : アンケート配付高校概要

今回のアンケート調査は、本学に入学実績のある北海道及び東北6県に所在する高校300校を対象としている。

アンケートを送付した高校の所在地は、北海道、東北の全域に及ぶ。またその種別も普通科、商業高校や工業高校、農業高校などの職業科、通信制、単位制など幅広いものとなっている。

アンケートの回収率は、全体で54%である。

県別で見ると、秋田県内の高校の回収率は90%である。また、他県の回収率は、岩手県が56%、山形県が51%の順で高い値を示している。

また、高校受験ナビによる偏差値別で見ると、偏差値55以上59未満に位置づけられている高校からの回収率が高く62%となっている。

回収率から、秋田県内はもとより岩手県・山形県の高校が本学の4年制大化学に高い関心を持っていると考えられる。

#### 県別配付校数

	配付数	回答数	回収率
合計	300	162	54%
北海道	52	19	37%
青森県	41	19	46%
岩手県	48	27	56%
宮城県	36	12	33%
秋田県	61	55	90%
山形県	43	22	51%
福島県	19	8	42%

#### 公立・私立別

	配付数	回答数	回収率
合計	300	162	54%
私立高校	53	26	49%
公立高校	247	136	55%

#### 偏差値別配付校数(高校受験ナビによる)

	配付数	回答数	回収率
合計	300	162	54%
偏差値64以上	12	5	42%
偏差値60以上64未満	29	14	48%
偏差値55以上59未満	42	26	62%
偏差値50以上54未満	64	33	52%
偏差値50未満	143	79	55%
その他	10	5	50%

#### (2) : 回答教員属性

アンケートの回答者として、進路指導教諭又は美術教諭を指定し、アンケートを送付した。

アンケートで回答をしていただいた教員の属性は、進路指導教諭が131人でアンケート全体のうち81%、美術教諭が43人でアンケート全体のうち27%となっている。

	回答人数	割合
合計	162人	100%
進路指導教諭	116人	72%
美術教諭	28人	17%
進路指導及び美術教諭兼任	5人	3%
進路指導教諭及び美術教諭がそれぞれ回答	10人	6%
無回答	3人	2%

# 1：御校の進路全般について、お聞きします

## 問1：御校の生徒数を教えてください

各校の生徒数の規模は、各学年200人程度である。最大規模は1年生492人、2年生458人、3年生604人であり、最小規模は、1年生23人、2年生24人、3年生18人という結果となった。

学校規模別で分類すると全学生数が600人を超える高校が76校、300人以上600人未満の高校が65校、300人未満の高校が20校となっている。

各学年間の生徒数の差をみると、全体の平均でも、学校規模別の集計でも、1年生の生徒が最も多く、2年生になると学生数が少なくなっている。

### (1)：単純集計

	平均	最大	最小
1年生（単位：人）	201	492	23
2年生（単位：人）	193	458	24
3年生（単位：人）	195	604	18

備考

- ・アートデザインコースなどの専門課程で分かれている高校がある。
- ・通信制高校、定時制では4年制となっている高校がある

### (2)：学校規模別集計

	学校数	平均学生数		
		1年生	2年生	3年生
全学生数：600人以上	76	268.49	259.96	262.74
全学生数：300人以上600人未満	65	163.57	156.89	157.97
全学生数：300人未満	20	74.33	66.19	67.81

## 問2：3年生で進学を希望する生徒と就職を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください

単純集計による進学希望者数の平均をみると、3年生の生徒のうち72%が進学希望、27%の生徒が就職希望となっている。

一方、進学希望者の割合に着目し、学校数を整理（以下「進学率別」と呼ぶ）すると、進学希望80%以上の高校（以下「進学校」と呼ぶ）が84校で過半数を占め、52%となっている。進学希望50%以上80%未満の高校（以下「普通校」と呼ぶ）が43校で27%、進学希望50%未満の高校（以下「就職校」と呼ぶ）が35校で22%となっている。

このことから、本学に入学実績のある高校の内訳は、進学希望80%以上の進学校が過半数を占めていることが分かる。

### (1)：単純集計

希望者数割合

	平均値
進学希望者	72%
就職希望者	27%

高校の傾向

	学校数	割合
合計	162校	100%
進学希望者80%以上の高校数（進学校）	84校	52%
進学希望者50%以上80%未満の高校数（普通校）	43校	27%
進学希望者50%未満の高校数（就職校）	35校	22%



**問3：進学を希望する生徒は今後どうなると考えますか。（1つ選んでください）**

単純集計をみると、「変わらない」が56%と過半数を占めている。次いで、「やや多くなる」が28%、「多くなる」が11%で、合計39%を占めている。

進学率別でみると、進学校では、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて36%であり、「変わらない」が63%という結果となった。普通校では、「多くなる」「やや多くなる」が合計52%を占め、就職校では、「多くなる」「やや多くなる」が合計30%を占めている。

進学を希望する生徒の動向について、普通校では過半数の高校で「増加する」と考えている。また、進学校、就職校でも3割強の高校で進学希望の生徒が増加するという見通しを持っている。多くの高校で、進学を希望する生徒数は現状維持又は増加するという見通しであると考えられる。

**(1)：単純集計**

	回答数	割合
1. 多くなる	17	11%
2. やや多くなる	45	28%
3. 変わらない	90	56%
4. やや少なくなる	8	5%
5. 少なくなる	0	0%

**(2)：進学率別集計**

	進学校	普通校	就職校
母数（回答者総数）	84	42	34
1. 多くなる	12%	12%	6%
2. やや多くなる	24%	40%	24%
3. 変わらない	63%	40%	59%
4. やや少なくなる	1%	7%	12%
5. 少なくなる	0%	0%	0%

**問4：進学希望者の中で、4年制大学、短期大学及び専門学校を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください。**

単純集計をみると、進学希望者の占める割合の平均は、4年制大学への進学希望者は52%、短期大学への進学希望者は13%、専門学校への進学希望者は35%となった。

進学率別でみると、進学校では4年制大学への進学希望者が70%を占めている。普通校では4年制大学への進学希望者が34%を占め、専門学校への進学希望者が49%を占めている。また、就職校では、4年制大学への進学希望者が29%を占め、専門学校への進学希望者が57%を占めている。短期大学への進学希望者は、進学校、普通校、就職校全てにわたって、12%から15%である。

地域別でみると、秋田県内では、4年制大学への進学希望者が45%を占め、短期大学への進学希望者が20%を占めている。また、秋田県外では、4年制大学への進学希望者が55%を占め、短期大学への進学希望者が10%を占めている。秋田県内と秋田県外を比べると、4年制大学への進学希望者と短期大学への進学希望者とで10%ずつの違いが生じている。

進学希望者の生徒の多くは、4年制大学か専門学校を希望している。短大を希望する生徒の割合は少なく2割程度である。

**(1)：単純集計**

	平均値
1. 4年制大学希望者	52%
2. 短期大学希望者	13%
3. 専門学校希望者	35%

（【注】各項目パーセンテージの平均値を表記しているため、縦軸の合計が100%にならない場合がある）

**(2)：進学率別集計**

	進学校	普通校	就職校
母数（回答者総数）	84	43	35
1. 4年制大学希望者	70%	34%	29%
2. 短期大学希望者	13%	15%	12%
3. 専門学校希望者	18%	49%	57%

（【注】各項目パーセンテージの平均値を表記しているため、縦軸の合計が100%にならない場合がある）

**(3)：地域別集計**

	秋田県内	秋田県外
母数（回答者総数）	55	107
1. 4年制大学希望者	45%	55%
2. 短期大学希望者	20%	10%
3. 専門学校希望者	39%	32%

（【注】各項目パーセンテージの平均値を表記しているため、縦軸の合計が100%にならない場合がある）

**問5：進学先を希望する生徒の理由は何だと考えますか。（それぞれ最大2つまで選択）**

単純集計をみると、4年制大学を希望する生徒の希望理由として考えられている項目は、「専門知識等を身につけたいから」が85%と最も多く、次いで「就職に有利だから」35%、「資格を取得したいから」33%の順となった。短期大学を希望する生徒の希望理由として考えられている項目は、「資格を取得したいから」が57%で最も多く、「専門知識等を身につけたいから」が41%となっている。また、「地元にあるから」「学費が安いから」がともに25%の値を示しており、他の進学先よりも大きい値を示している。専門学校を希望する生徒の希望理由として考えられている項目は、「資格を取得したいから」が82%で最も多く、「専門知識等を身につけたいから」が38%、「就職に有利だから」が33%の順となっている。

4年制大学を希望する生徒について、進学率別で比較を行うと、進学校、普通校、就職校、ほぼ同じ割合で項目が選択されている。「専門知識を身につけたいから」が最も多い。

短期大学を希望する生徒について、進学率別で比較を行うと、進学校では、「地元にあるから」を理由とする割合が30%で高い割合を占めている。また、「学費が安いから」は進学校、普通校では25%を超える割合となっている。

4年制大学、短期大学、専門学校では、進路を希望する理由が異なることが読み取れる。4年制大学を希望する生徒たちは「専門知識を身につける」「資格の取得」を重視していると考えられている。短期大学では、同じ項目の割合は高いものの、「地元にあること」「学費の安さ」も大きな要素であると考えられている。また、専門学校は「資格の取得」を際立って重視していると考えられている。

**(1)：単純集計**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 専門知識等を身につけたいから	85%	41%	38%
2. 資格を取得したいから	33%	57%	82%
3. 就職に有利だから	35%	17%	33%
4. 地元にあるから	9%	25%	7%
5. 学費が安いから	3%	25%	7%
6. その他	7%	2%	1%

**(2)：進学率別及び地域別集計**

**4年制大学を希望する生徒**

	進学率別			地域別	
	進学校	普通校	就職校	秋田県	秋田県外
母数	84	43	35	55	107
1. 専門知識等を身につけたいから	85%	77%	94%	89%	82%
2. 資格を取得したいから	30%	40%	31%	35%	32%
3. 就職に有利だから	40%	35%	20%	29%	37%
4. 地元にあるから	10%	2%	17%	5%	11%
5. 学費が安いから	4%	5%	0%	4%	3%
6. その他	6%	9%	9%	9%	7%

**短期大学を希望する生徒**

	進学率別			地域別	
	進学校	普通校	就職校	秋田県	秋田県外
母数	84	43	35	55	107
1. 専門知識等を身につけたいから	32%	53%	49%	47%	38%
2. 資格を取得したいから	55%	65%	54%	65%	53%
3. 就職に有利だから	20%	9%	20%	13%	20%
4. 地元にあるから	30%	16%	23%	27%	23%
5. 学費が安いから	27%	26%	20%	15%	31%
6. その他	2%	2%	0%	4%	1%

**専門学校を希望する生徒**

	進学率別			地域別	
	進学校	普通校	就職校	秋田県	秋田県外
母数	84	43	35	55	107
1. 専門知識等を身につけたいから	30%	44%	51%	42%	36%
2. 資格を取得したいから	82%	81%	83%	84%	81%
3. 就職に有利だから	32%	33%	34%	29%	35%
4. 地元にあるから	6%	7%	9%	4%	8%
5. 学費が安いから	6%	7%	9%	5%	7%
6. その他	2%	0%	0%	2%	1%

(3) : その他の理由

■ 4年制大学を希望

回答内容
様々な経験を通して人間形成したいから
広く教養を身につけ人間的成長を図る
学歴取得
幅広い人間形成、リーダーの素質等
生産管理・設計などの技術職や事務職に就くため
将来を模索するため
知的好奇心の探究、学問追及心
視野を広げ将来の選択肢を多くしたいから
保護者のアドバイス
スポーツの継続
就職したくない

■ 短期大学を希望

回答内容
幅広い人間形成、リーダーの素質等
就職したくない

■ 専門学校を希望

回答内容
入りやすいから

**問6：それぞれの進学先を希望する生徒は、今後どうなると考えますか**

単純集計をみると、4年制大学を希望する生徒について、「多くなる」「やや多くなる」と考えている高校が合わせて53%を占めている。短期大学を希望する生徒について、「少なくなる」「やや少なくなる」と考えている高校は合わせて26%を占めており、「多くなる」「やや多くなる」に比べて10%上回っている。専門学校を希望する生徒については、「多くなる」「やや多くなる」と考える高校が22%で、「少なくなる」「やや少なくなる」と考える高校が22%となっている。

進学率別でみると、進学校では、4年制大学への希望者が増加する（「多くなる」「やや多くなる」と考える高校が全体の63%を占めている。一方で、短期大学への希望者は減少する（「やや少なくなる」「少なくなる」と考えている高校が40%を占めている。専門学校への希望者についても、30%が減少すると考えている。

普通校では、4年制大学への希望者が増加すると考える高校が51%ある。また、短期大学への希望者が増加すると考える高校が23%ある。

就職校では、短期大学への希望者が増加すると考える高校が20%ある。専門学校への希望者が増加すると考えている高校は、46%ある。

多くの高校が4年制大学を希望する生徒が増加するという見通しを持っている一方で、短期大学を希望する生徒は、減少すると考えている。特に、進学校ではその傾向が顕著である。

**(1)：単純集計**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 多くなる	15%	1%	2%
2. やや多くなる	38%	14%	20%
3. 変わらない	38%	54%	50%
4. やや少なくなる	4%	19%	20%
5. 少なくなる	1%	7%	2%

**(2)：進学率別及び地域別集計**

**進学校**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 多くなる	19%	0%	0%
2. やや多くなる	44%	8%	11%
3. 変わらない	35%	49%	54%
4. やや少なくなる	1%	29%	27%
5. 少なくなる	0%	11%	5%

**普通校**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 多くなる	16%	2%	7%
2. やや多くなる	35%	21%	19%
3. 変わらない	35%	58%	51%
4. やや少なくなる	5%	9%	16%
5. 少なくなる	2%	2%	0%

**就職校**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 多くなる	3%	0%	3%
2. やや多くなる	29%	20%	43%
3. 変わらない	51%	63%	40%
4. やや少なくなる	11%	9%	9%
5. 少なくなる	3%	6%	0%

**問7：それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向をお教えてください**

単純集計をみると、4年制大学を希望する生徒は、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」が合わせて53%であり、「地元志望が多い」を上回っている。短期大学を希望する生徒は、「地元志望が多い」が63%となっている。また、専門学校を希望する生徒は、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」を合わせて53%であり、「地元志望が多い」を上回っている。

進学率別にみると、4年制大学を希望する生徒及び専門学校を希望する生徒は、進学校、普通校、就職校にかかわらず、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」の合計が「地元志望が多い」を上回っている。短期大学を希望する生徒について、進学校、普通校、就職校の全てで「地元志望が多い」が60%を超えている。

地域別でみると、秋田県では、4年制大学を希望する生徒について、「地元以外の志望が多い」「特にこだわらない」が合わせて65%となっている。

4年制大学を希望する生徒や専門学校を希望する生徒は、地元志向に拘らない傾向が強い。特に秋田県内の高校ではその傾向が強く出ている。一方、短期大学を希望する生徒は、地元志向が強い。

**(1)：単純集計**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 地元志望が多い	44%	63%	42%
2. 地元以外の志望が多い	22%	13%	25%
3. 特にこだわらない	31%	19%	28%

**(2)：進学率別集計**

**進学校**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 地元志望が多い	45%	62%	40%
2. 地元以外の志望が多い	19%	10%	25%
3. 特にこだわらない	35%	23%	29%

**普通校**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 地元志望が多い	40%	60%	44%
2. 地元以外の志望が多い	23%	19%	30%
3. 特にこだわらない	33%	16%	21%

**就職校**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 地元志望が多い	49%	69%	43%
2. 地元以外の志望が多い	29%	14%	20%
3. 特にこだわらない	23%	11%	37%

**(3)：地域別集計**

**秋田県**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 地元志望が多い	35%	62%	25%
2. 地元以外の志望が多い	27%	15%	38%
3. 特にこだわらない	38%	20%	33%

**秋田県外**

	4年制大学を希望する生徒	短期大学を希望する生徒	専門学校を希望する生徒
1. 地元志望が多い	50%	64%	50%
2. 地元以外の志望が多い	20%	12%	19%
3. 特にこだわらない	28%	18%	26%

## 2：御校の美術系の4年制大学や短期大学を希望する生徒について、お聞きします

問8：美術系の4年制大学や短期大学への入学実績を、昨年度と一昨年度で記入してください

問9：美術系の4年制大学や短期大学を希望する生徒は、3年生で何人いますか。

単純集計をみると、美術系4年制大学では、一昨年から昨年度の入学実績、本年度志望者までの生徒数は、277人、272人、292人と推移している。一方美術系短期大学では、94人、105人、121人と推移している。

入学者を出している高校数の推移は、美術系4年制大学では、87校、82校、88校と推移し、美術系短期大学では、71校、65校、64校と推移している。

過去2年間に入学実績がある高校（以下「入学実績高校」という）1校当たりの入学生徒数は、美術系4年制大学では、3.2人、3.3人、3.3人と推移している。

進学率別集計でみると、美術系4年制大学では、各年の入学実績数、志望者数の8割が進学校で占められている。短期大学では、過半数が進学校の生徒で占められている。進学校における入学実績高校1校あたりの入学人数は、美術系4年制大学では3～4人程度、美術系短期大学では1.3～2.0人程度で推移している。

地域別集計でみると、秋田県では入学実績校1校当たりの入学実績数、本年度志望者数の推移は、2.0人、1.4人、1.6人であり、県外の入学実績校1校当たりの推移に比べて下回っているが、4年制大学への高校実績数は16校、20校、27校と年々増加している。

美術系4年制大学への入学実績校は、全体ではほぼ横ばいであるが、短大への入学実績校は減少する傾向を示している。

秋田県における美術系4年制大学への入学実績校は、増加傾向にある。

美術系4年制大学及び美術系短期大学への入学実績校の過半数は進学校で占められており、またその入学者数の割合も、進学校が大部分を占めている。

### (1)：単純集計

#### ①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	277	272	292
2. 美術系短期大学	94	105	121

#### ②入学実績高校数の推移

母数	162校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学		87	82	88
2. 美術系短期大学		71	65	64

#### ③集計平均（高校1校あたりの受験者数推移）

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者	
1. 美術系4年制大学	集計母数1校当たり	1.7	1.7	1.8
	入学実績高校1校当たり	3.2	3.3	3.3
2. 美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.6	0.6	0.7
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.6	1.9

**(2) : 進学率別集計****進学校****①集計延べ人数**

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	236	230	253
2. 美術系短期大学	53	64	71

**②入学実績高校数の推移**

母数	84校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学		62	58	62
2. 美術系短期大学		45	38	36

**③集計平均（高校1校あたりの受験者数推移）**

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	集計母数1校当たり	2.8	2.7	3.0
	入学実績高校1校当たり	3.8	4.0	4.1
2. 美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.6	0.8	0.8
	入学実績高校1校当たり	1.2	1.7	2.0

**普通校****①集計延べ人数**

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	30	31	21
2. 美術系短期大学	24	25	35

**②入学実績高校数の推移**

母数	43校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学		17	16	16
2. 美術系短期大学		18	16	18

**③集計平均（高校1校あたりの受験者数推移）**

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	集計母数1校当たり	0.7	0.7	0.5
	入学実績高校1校当たり	1.8	1.9	1.3
2. 美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.6	0.6	0.8
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.6	1.9

**就職校****①集計延べ人数**

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	11	11	18
2. 美術系短期大学	17	16	15

**②入学実績高校数の推移**

母数	35校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学		8	8	10
2. 美術系短期大学		8	11	10

**③集計平均（高校1校あたりの受験者数推移）**

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	集計母数1校当たり	0.3	0.3	0.5
	入学実績高校1校当たり	1.4	1.4	1.8
2. 美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.5	0.5	0.4
	入学実績高校1校当たり	2.1	1.5	1.5

(3) : 地域別集計

秋田県

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	32	28	42
2. 美術系短期大学	41	50	60

②入学実績高校数の推移

母数	55校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学		16	20	27
2. 美術系短期大学		31	26	31

③集計平均（高校1校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	集計母数1校当たり	0.6	0.5	0.8
	入学実績高校1校当たり	2.0	1.4	1.6
2. 美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.7	0.9	1.1
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.9	1.9

秋田県外

①集計延べ人数

	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	245	244	250
2. 美術系短期大学	53	55	61

②入学実績高校数の推移

母数	107校	一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学		71	62	61
2. 美術系短期大学		40	39	33

③集計平均（高校1校あたりの受験者数推移）

		一昨年度実績	昨年度実績	本年度志望者
1. 美術系4年制大学	集計母数1校当たり	2.3	2.3	2.3
	入学実績高校1校当たり	3.5	3.9	4.1
2. 美術系短期大学	集計母数1校当たり	0.5	0.5	0.6
	入学実績高校1校当たり	1.3	1.4	1.8



問10：美術系の4年制大学や短期大学を生徒に薦める際、重視することは何ですか。（最大2つを選択）

単純集計をみると、「生徒が希望する分野・コース等がある」が45%を占めている。次に、「教育内容の質が高い」が27%となっている。

回答教員属性別集計でみると、主な項目の割合は単純集計の場合と同じだが、美術教諭による回答では、「生徒の学力にあっている」という点が重視されている。

「生徒が希望する分野・コースなどがある」が美術系の4年制大学や短期大学の進路の選択において重要な要素となっている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
1. 生徒が希望する分野・コース等がある	135	45%
2. 就職に有利である	29	10%
3. 生徒の学力にあっている	22	7%
4. 教育内容の質が高い	80	27%
5. 施設・工房等が充実している	24	8%
6. 地元にある	3	1%
7. その他	4	1%

(2)：回答教員属性別集計

	進路指導教諭		美術教諭	
	回答数	割合	回答数	割合
1. 生徒が希望する分野・コース等がある	103	47%	36	43%
2. 就職に有利である	22	10%	6	7%
3. 生徒の学力にあっている	13	6%	10	12%
4. 教育内容の質が高い	58	26%	23	28%
5. 施設・工房等が充実している	19	9%	5	6%
6. 地元にある	3	1%	1	1%
7. その他	2	1%	2	2%

(3)：その他の理由及び欄外の記入

その他の理由

回答内容
授業料や生活費や奨学制度
短大では編入も視野に入れられる
学校から出るエネルギーのようなもの…？抽象的すみません
これまで美術系志望がなく、申し訳ありませんが不明です

欄外コメント

回答内容
学費のことも重要

問11：それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向を教えてください

単純集計をみると、美術系4年制大学を希望する生徒では、「関東志望が多い」「特にこだわらない」で56%を占めるが、美術系短期大学を希望する生徒では、「北海道・東北志望が多い」が57%を占めている。

進学率別集計でみると、就職校の美術系の短期大学を希望する生徒では「関東志望が多い」「特にこだわらない」で54%を占めている。

地域別集計を見ると、秋田県の美術系4年制大学を希望する生徒では、「関東志望が多い」「特にこだわらない」が62%を占めている。

美術系の4年制大学を希望する生徒は、一般の4年制大学希望者と同様に、地元志向にこだわらない傾向がある。一方、美術系短期大学を希望する生徒は地元・近県の学校を希望する傾向が強い。

(1)：単純集計

	美術系の4年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
1. 北海道・東北志望が多い	63	43%	78	57%
2. 関東志望が多い	21	14%	3	2%
3. 特にこだわらない	62	42%	55	40%

(1)：進学率別集計

進学校

	美術系の4年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
1. 北海道・東北志望が多い	40	49%	45	62%
2. 関東志望が多い	12	15%	0	0%
3. 特にこだわらない	30	37%	28	38%

普通校

	美術系の4年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
1. 北海道・東北志望が多い	16	44%	20	57%
2. 関東志望が多い	5	14%	2	6%
3. 特にこだわらない	15	42%	13	37%

就職校

	美術系の4年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
1. 北海道・東北志望が多い	7	25%	13	46%
2. 関東志望が多い	4	14%	1	4%
3. 特にこだわらない	17	61%	14	50%

(3)：地域別集計

秋田県

	美術系の4年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
1. 北海道・東北志望が多い	19	38%	38	76%
2. 関東志望が多い	10	20%	0	0%
3. 特にこだわらない	21	42%	12	24%

秋田県外

	美術系の4年制大学志望者		美術系の短期大学志望者	
1. 北海道・東北志望が多い	44	46%	40	47%
2. 関東志望が多い	11	11%	3	3%
3. 特にこだわらない	41	43%	43	50%

### 3：秋田公立美術工芸短期大学について、お聞きします。

問12：秋田公立美術短期大学に対する評価について伺います。

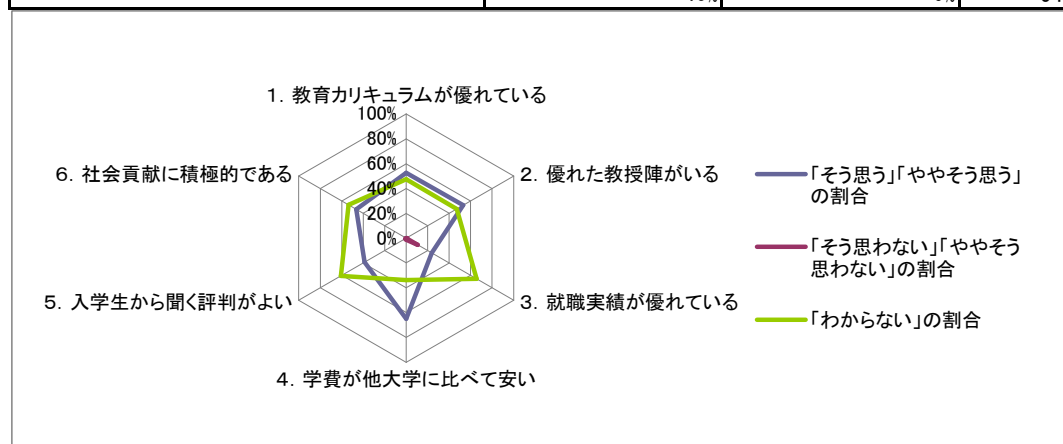
単純集計をみると、「学費が他大学に比べて安い」が「そう思う」「ややそう思う」を合わせて65%を占めている。その一方で、「就職実績が優れている」では、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて20%程度しか評価されていない。他の評価項目についても、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて40%程度の評価となっている。

回答教員属性別集計でみると、進路指導教諭では、「わからない」と回答した割合が、「学費が他大学に比べて安い」以外の全ての項目で50%を超える値を示している。一方、美術教諭による評価では、「就職実績が優れている」以外の項目で、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた値が70%を越えている。

学費の安さが大きな評価を得ている一方で、就職実績については高い評価を得られていない。また、美術教諭における本学の認知と評価は高いものの、進路指導教諭への認知は必ずしも高いものではない。

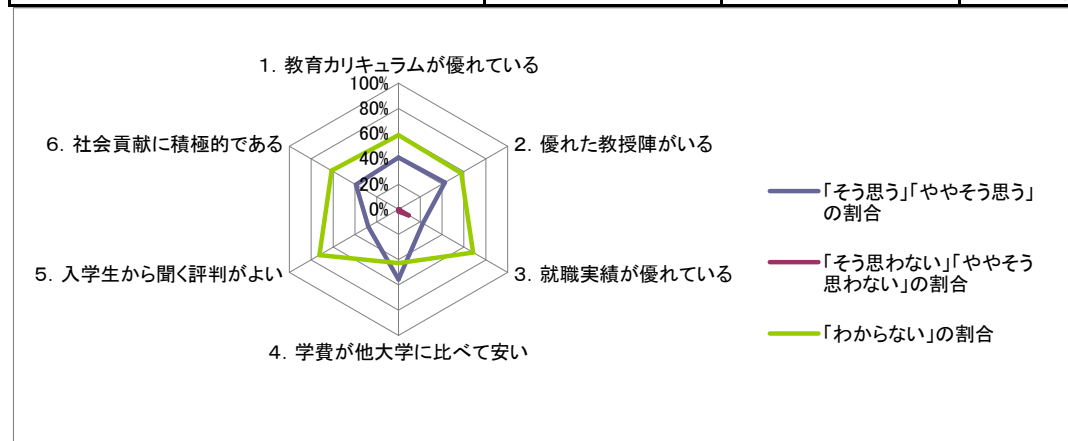
#### (1)：単純集計

	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1. 教育カリキュラムが優れている	26	56	0	0	74
割合		53%		0%	47%
2. 優れた教授陣がいる	33	50	0	0	73
割合		53%		0%	47%
3. 就職実績が優れている	7	30	15	2	102
割合		24%		11%	65%
4. 学費が他大学に比べて安い	59	43	2	0	53
割合		65%		1%	34%
5. 入学生から聞く評判がよい	18	42	1	0	94
割合		39%		1%	61%
6. 社会貢献に積極的である	21	51	0	0	83
割合		46%		0%	54%



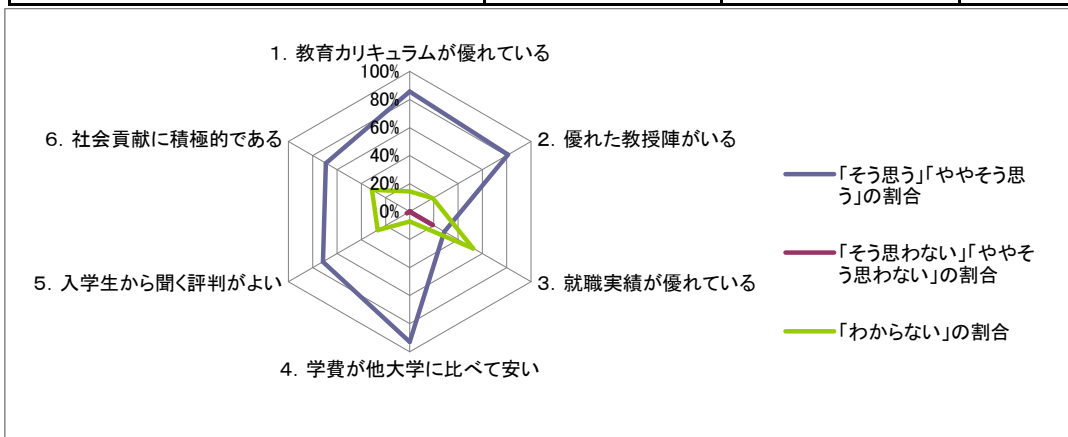
(2) : 回答教員属性別集計  
進路指導教諭

	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1. 教育カリキュラムが優れている	15	33	0	0	69
		41%		0%	59%
2. 優れた教授陣がいる	18	32	0	0	67
		43%		0%	57%
3. 就職実績が優れている	4	22	10	1	80
		22%		9%	68%
4. 学費が他大学に比べて安い	31	34	2	0	50
		56%		2%	43%
5. 入学生から聞く評判がよい	7	25	0	0	84
		28%		0%	72%
6. 社会貢献に積極的である	10	35	0	0	71
		39%		0%	61%



美術教諭

	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1. 教育カリキュラムが優れている	11	25	0	0	6
		86%		0%	14%
2. 優れた教授陣がいる	17	17	0	0	8
		81%		0%	19%
3. 就職実績が優れている	3	9	6	2	22
		29%		19%	52%
4. 学費が他大学に比べて安い	31	9	0	0	3
		93%		0%	7%
5. 入学生から聞く評判がよい	10	20	1	0	11
		71%		2%	26%
6. 社会貢献に積極的である	11	18	0	0	13
		69%		0%	31%



**問13：秋田公立美術短期大学を美術系志望の生徒に薦める際、志望校としての位置付けを教えてください。（最大2つを選択）**

単純集計をみると、「第一志望として薦めたい短大の1つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせて、58%を占めている。

進学率別集計では、「第一志望として薦めたい短大の1つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせた割合は、進学校では59%、普通校では55%、就職校では60%となった。

地域別集計では、「第一志望として薦めたい短大の1つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせてた割合は、秋田県が63%となった。

回答教員属性別では、美術教員において「第一志望として薦めたい短大の1つ」「志望校および併願校として薦めたい短大の1つ」を合わせて占める割合が67%となった。

本学は、志望校としては薦められる短期大学として位置づけられているが、第一志望よりも併願校としての性格が強いと判断される。

**(1)：単純集計**

	回答数	割合
1. 第一志望として薦めたい短大の1つ	59	25%
2. 志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	77	33%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	85	36%
4. あまり積極的には薦められない短大の1つ	0	0%
5. その他	12	5%

**(2)：進学率別集計**

	進学校	普通校	就職校
1. 第一志望として薦めたい短大の1つ	20%	27%	36%
2. 志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	39%	28%	24%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	36%	38%	36%
4. あまり積極的には薦められない短大の1つ	0%	0%	0%
5. その他	5%	7%	4%

**(3)：地域別集計**

	秋田県	秋田県外
1. 第一志望として薦めたい短大の1つ	31%	22%
2. 志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	32%	34%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	36%	37%
4. あまり積極的には薦められない短大の1つ	0%	0%
5. その他	1%	7%

**(4)：回答教員属性別集計**

	回答数	進路指導 教諭	美術 教諭
1. 第一志望として薦めたい短大の1つ	40	24%	30%
2. 志望校および併願校として薦めたい短大の1つ	52	31%	37%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う短大の1つ	64	38%	31%
4. あまり積極的には薦められない短大の1つ	0	0%	0%
5. その他	11	7%	1%

**(5)：その他の理由**

回答内容
基本的には短大は薦めない
オープンキャンパスで確認させるようになっています
短大希望者はほほいないといってよいので何ともいえない
遠いのが問題
これまで進学したことがない為わかりかねます
すみませんがあまり判らず回答できません
大変申し訳ありませんが勉強不足で分かりません
当該生徒がほとんどいないのでわからない
ほとんど情報がないので
まったくわからない
申し訳ありませんが不明です
わからない

問14：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になることは、受験生にとって好ましいと考えますか

単純集計をみると、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、66%を占めている。一方「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」を合わせて10%となった。

進学率別集計でみると、進学校では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、79%を占めている。普通校では、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、64%を占めているが、「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」を合わせて12%を占めている。また、就職校では、「どちらでもない」が40%を占め、「どちらかといえば好ましくない」が20%を占めている。

地域別集計でみると、秋田県では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、62%を占めている。一方で、「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」が合わせて10%を占めている。また、秋田県外では、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、69%を占めている。

回答教員属性別でみると、進路指導教諭では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、64%を占めている。美術教諭では、70%となっている。

本学の4年制大学化を「好ましい」と評価する割合が66%を占め、「好ましくない」の10%を大きく上回っている。特に、美術系大学の進学者の大多数を占める進学校の中での割合は79%を占めている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
1. 好ましい	55	35%
2. どちらかといえば好ましい	49	31%
3. どちらでもない	38	24%
4. どちらかといえば好ましくない	14	9%
5. 好ましくない	1	1%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
1. 好ましい	44%	33%	17%
2. どちらかといえば好ましい	35%	31%	23%
3. どちらでもない	18%	24%	40%
4. どちらかといえば好ましくない	4%	10%	20%
5. 好ましくない	0%	2%	0%

(3)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
1. 好ましい	32%	37%
2. どちらかといえば好ましい	30%	32%
3. どちらでもない	28%	22%
4. どちらかといえば好ましくない	8%	10%
5. 好ましくない	2%	0%

(4)：回答教員属性別集計

	進路指導教諭	美術教諭
1. 好ましい	30%	50%
2. どちらかといえば好ましい	34%	20%
3. どちらでもない	25%	23%
4. どちらかといえば好ましくない	10%	8%
5. 好ましくない	1%	0%

問15 : 「好ましい」「どちらかといえば好ましい」と回答した理由 (最大2つを選択)

単純集計をみると、「4年制大学の選択肢が増えるから」が37%を占め、次いで「授業料の安い国公立大学が増えるから」が25%、「幅広い知識を身につけたい受験生が多いから」が24%を占めている。

進学率別集計をみると、進学校では、「4年制大学の選択肢が増えるから」が40%を占め、次いで「授業料の安い国公立大学が増えるから」が32%となっている。普通校では、「4年制大学の選択肢が増えるから」が40%を占め、「幅広い知識を身につけたい受験生が多いから」が31%を占めている。就職校では、「幅広い知識を身につけたい受験生が多いから」が35%を占め、次いで「4年制大学は就職に有利だから」が23%を占めている。

「4年制大学の選択肢が増えること」と「授業料の安い国公立大学が増えること」が大きなメリットとして認識されている。

(1) : 単純集計

	回答数	割合
1. 幅広い知識を身につけたい受験生が多いから	43	24%
2. 4年制大学の選択肢が増えるから	66	37%
3. 4年制大学は就職に有利だから	12	7%
4. 授業料の安い国公立大学が増えるから	45	25%
5. その他	11	6%

(2) : 進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
1. 幅広い知識を身につけたい受験生が多いから	19%	31%	35%
2. 4年制大学の選択肢が増えるから	40%	40%	19%
3. 4年制大学は就職に有利だから	5%	2%	23%
4. 授業料の安い国公立大学が増えるから	32%	12%	19%
5. その他	4%	14%	4%

(3) : その他の理由

回答内容
地域に根ざした学び・取組みが期待できるから
秋田の美術のレベルが高くなる
短大の存在意義が薄れてきている。高学歴化の現在、大学卒が普通になってきている。
やはり短大で美術工芸を学ぶのには限界があると思います。
4年制になる事でより多くの資格が取れると思うので
短大では学ぶ時間が足りないと思うから
2年では短い
4年制大学への編入を考えず、学びに集中できるから。
他の(県内4年制)大学での「ゼロ免課程」検討の話に危機感を抱く中。貴学の教職資格取得可能なカリキュラムの検討に期待したから
短大も残してもらえると選択の幅が増える。
よく分からないが受験生にとっては1だと思う

問16 : 「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」と回答した理由 (最大2つを選択)

単純集計をみると、「経済的な負担が増えるから」が41%を占め、次いで「合格水準が上がると入学が難しくなるから」「短期大学の選択肢が減るから」がともに21%を占めている。

進学率別集計をみると、進学校では、「短期大学の選択肢が減るから」が38%を占め、次いで「経済的な負担が増えるから」が25%を占めている。普通校では、「経済的な負担が増えるから」が40%を占め、次いで「合格水準が上がると入学が難しくなるから」が30%を占めている。就職校では、「経済的な負担が増えるから」が55%を占めている。

「経済的な負担の増加」が4年制大学化の一番のデメリットとして挙げられている。

(1) : 単純集計

	回答数	割合
1. 短期大学で十分という受験生が多いから	4	14%
2. 合格水準が上がると入学が難しくなるから	6	21%
3. 短期大学の選択肢が減るから	6	21%
4. 経済的な負担が増えるから	12	41%
5. その他	1	3%

(2) : 進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
1. 短期大学で十分という受験生が多いから	13%	20%	9%
2. 合格水準が上がると入学が難しくなるから	13%	30%	18%
3. 短期大学の選択肢が減るから	38%	10%	18%
4. 経済的な負担が増えるから	25%	40%	55%
5. その他	13%	0%	0%

(3) : その他の理由

回答内容
編入を前提と出来なくなる



問17：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になることによる、受験を希望する生徒数の見通しについて

単純集計をみると、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて56%である。

進学率別集計をみると、進学校では、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて68%である。普通校では、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて52%であるが、一方で「やや少なくなる」「少なくなる」を合わせて12%となっている。就職校では、「変わらない」が52%を占め、「多くなる」「やや多くなる」を合わせて29%を占めている。「やや少なくなる」「少なくなる」を合わせて19%である。

地域別をみると、秋田県が「多くなる」「やや多くなる」を合わせて49%であり、秋田県外は、59%を占めている。

過半数の56%の高校で、受験を希望する生徒数は増加すると考えている。地域別でも、秋田県で49%、秋田県外でも59%の高校が、受験を希望する生徒数が増加すると考えている。

(1)：単純集計

	回答数	割合
1. 多くなる	23	16%
2. やや多くなる	58	40%
3. 変わらない	51	35%
4. やや少なくなる	12	8%
5. 少なくなる	2	1%

(2)：進学率別集計

	進学校	普通校	就職校
1. 多くなる	19%	15%	10%
2. やや多くなる	49%	37%	19%
3. 変わらない	27%	37%	52%
4. やや少なくなる	4%	10%	16%
5. 少なくなる	1%	2%	3%

(3)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
1. 多くなる	12%	18%
2. やや多くなる	37%	41%
3. 変わらない	39%	33%
4. やや少なくなる	8%	8%
5. 少なくなる	4%	0%

**問18：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、美術系志望の生徒に薦める際の志望校としての位置付け（最大2つを選択）**

単純集計をみると、「第一志望として薦めたい大学の1つ」「志望校および併願校として薦めたい大学の1つ」を合わせて63%である。

進学率別をみると、進学校では、「第一志望として薦めたい大学の1つ」「志望校および併願校として薦めたい大学の1つ」を合わせて70%となった。普通校及び就職校では、同じ項目で、それぞれ60%、53%を占めている。

地域別をみると、同様の項目で、秋田県では73%、秋田県外でも59%を占めている。

回答教師属性別でみると、同様の項目で、進路指導教諭では59%、美術教諭では74%を占めている。

4年制大学になることにより、短大時の位置づけに比べ、「第一志望として進めたい大学」が5ポイント上回っている。特に進学校では、11ポイントほど増加している。

秋田県内においても、短大時の位置づけに比べて「第一志望として薦めたい大学」が10ポイント上回っている。

**(1)：単純集計**

	回答数	割合
1. 第一志望として薦めたい大学の1つ	68	30%
2. 志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	75	33%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	75	33%
4. あまり積極的には薦められない大学の1つ	1	0%
5. その他	5	2%

**(2)：進学率別集計**

	進学校	普通校	就職校
1. 第一志望として薦めたい大学の1つ	31%	31%	29%
2. 志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	39%	29%	24%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	27%	36%	47%
4. あまり積極的には薦められない大学の1つ	0%	2%	0%
5. その他	3%	2%	0%

**(3)：地域別集計**

	秋田県	秋田県外
1. 第一志望として薦めたい大学の1つ	41%	25%
2. 志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	32%	34%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	27%	37%
4. あまり積極的には薦められない大学の1つ	1%	0%
5. その他	0%	3%

**(4)：回答教員属性別集計**

	進路指導教諭	美術教諭
1. 第一志望として薦めたい大学の1つ	27%	37%
2. 志望校および併願校として薦めたい大学の1つ	32%	37%
3. 生徒が望めば受験させても良いと思う大学の1つ	37%	25%
4. あまり積極的には薦められない大学の1つ	1%	0%
5. その他	3%	0%

**(5)：その他の理由**

回答内容
今は東北芸術工科大第一希望が多いが4年制大学になれば、ほとんど秋田さんの方へ本校生徒は流れると思う。
希望が有れば考える
志望生徒が出た際に検討したいと思います
卒業後専門を生かした職種に進みたい場合は薦めない
卒業年が出て一定の評価が出るまでは指導が難しい

**問19：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、生徒に身につけさせたい知識や能力は何ですか。（最大2つを選択）**

単純集計をみると、「専門的な知識・技術」が43%を占め、続いて「創造力・デザイン力」が25%、「社会人として対応できるスキル」が17%となっている。

進学率別をみると、「専門的な知識・技術」は進学校、普通校、就職校ともに、40%以上を占めている。進学校では、普通校や就職校に比べて「創造力・デザイン力」の占める割合が大きい。就職校では、「社会人として対応できるスキル」が進学校や普通校と比べて24%と大きい値を示している。

回答教諭属性別をみると、進路指導教諭では、「幅広い教養」が占める割合が12%を占め、美術教師の同じ項目に比べて大きい。

4年制大学になることで「専門的な知識・技術」「創造力・デザイン力」の育成を期待している教諭が多い。

**(1)：単純集計**

	回答数	割合
1. 専門的な知識・技術	132	43%
2. 幅広い教養	33	11%
3. 創造力・デザイン力	76	25%
4. コミュニケーション能力	16	5%
5. 社会人として対応できるスキル	53	17%
6. その他	0	0%

**(2)：進学率別集計**

	進学校	普通校	就職校
1. 専門的な知識・技術	42%	45%	40%
2. 幅広い教養	9%	12%	12%
3. 創造力・デザイン力	29%	20%	21%
4. コミュニケーション能力	6%	6%	3%
5. 社会人として対応できるスキル	14%	17%	24%
6. その他	0%	0%	0%

**(3)：回答教員属性別集計**

	進路指導教諭	美術教諭
1. 専門的な知識・技術	42%	45%
2. 幅広い教養	12%	5%
3. 創造力・デザイン力	25%	23%
4. コミュニケーション能力	4%	8%
5. 社会人として対応できるスキル	17%	19%
6. その他	0%	0%

**(5)：欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）**

回答内容
実は1, 2, 3, 4全て
地域（東北全体を含む）との連携

問20 : 秋田公立美術短期大学が4年制大学になった場合、大学に望むものは何ですか(最大2つを選択)

単純集計をみると、「就職支援体制」が36%を占め、次いで「優れたカリキュラム」が31%占めている。

進学率別をみると、進学校では「優れたカリキュラム」が33%を占め、次いで「就職支援体制」が31%となっている。普通校では、「就職支援体制」が40%を占め、次いで「優れたカリキュラム」が33%となっている。就職校では「就職支援体制」が、42%を占め、次いで「優れたカリキュラム」が23%となっている。

4年制大学化に向けて、「優れたカリキュラム」と「就職支援体制」をつくらることが求められている。

(1) : 単純集計

	回答数	割合
1. 優れたカリキュラム	93	31%
2. 優れた教授陣	54	18%
3. 就職支援体制	107	36%
4. 授業料の安さ	41	14%
5. その他	5	2%

(2) : 進学率別集計

進学希望者別集計 全生徒数80%以上が進学希望

	進学校	普通校	就職校
1. 優れたカリキュラム	33%	33%	23%
2. 優れた教授陣	21%	14%	15%
3. 就職支援体制	31%	40%	42%
4. 授業料の安さ	12%	12%	18%
5. その他	2%	1%	2%

(3) : その他の理由

回答内容
秋田県の美術教育と文化の向上
教職課程の設置。教職課程での学生の学びの経験は、新たな刺激や、表現の可能性、コミュニケーション能力の育成に結びつくと思っています。
産学連携や地域とのつながり
ハイレベルな芸術性を身につけるための指導力と相応の実績
美術教師のいない高校も多く、工芸やデザインの内容を理解しないまま進学する事も予想されるので遠い地域（県北県南）にも説明会や体験学習で知ってから選択する機会が欲しい

(4) : 欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）

回答内容
芸術家・作家としての経歴も大事だが社会との連結を考えれば優れた指導者・教育者の充実がより大事かと思う。現在の美工短は非常に充実している
教授先生方のチームワーク、高等学校への支援

問21：秋田公立美術短期大学での最もニーズがあると思われるコースと分野

単純集計をみると、「グラフィックデザイン」「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」が60%を超える値を示している。

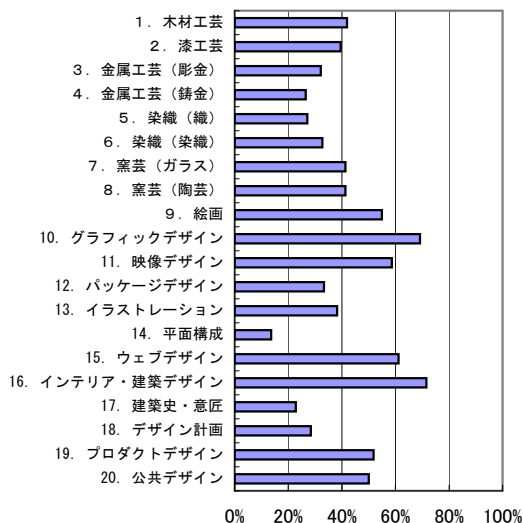
地域別でみると、秋田県では単純集計の結果と同様に「グラフィックデザイン」「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」等が60%を超える値を示している。一方、秋田県外では、「グラフィックデザイン」「映像デザイン」「インテリア・建築デザイン」が60%を超える値を示している。

回答教諭属性別でみると、進路指導教諭では、「グラフィックデザイン」「インテリア・建築デザイン」が60%を超える値を示している。一方、美術教諭では、「窯芸(ガラス)」「絵画」「グラフィックデザイン」「映像デザイン」「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」「プロダクトデザイン」が60%を超える値を示している。

全体では、「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」などがニーズがあると認識されている。美術教諭では、「プロダクトデザイン」が最もニーズがあると認識されている。

(1)：単純集計

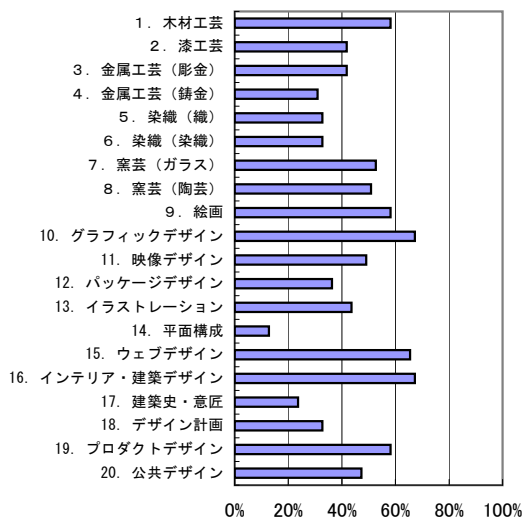
	支持数
1. 木材工芸	42%
2. 漆工芸	40%
3. 金属工芸(彫金)	32%
4. 金属工芸(鋳金)	27%
5. 染織(織)	27%
6. 染織(染織)	33%
7. 窯芸(ガラス)	41%
8. 窯芸(陶芸)	41%
9. 絵画	55%
10. グラフィックデザイン	69%
11. 映像デザイン	59%
12. パッケージデザイン	33%
13. イラストレーション	38%
14. 平面構成	14%
15. ウェブデザイン	61%
16. インテリア・建築デザイン	72%
17. 建築史・意匠	23%
18. デザイン計画	28%
19. プロダクトデザイン	52%
20. 公共デザイン	50%



(2)：地域別集計

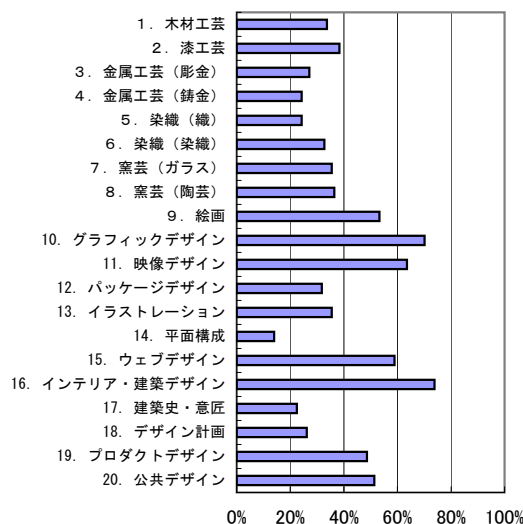
秋田県

	支持数
1. 木材工芸	58%
2. 漆工芸	42%
3. 金属工芸(彫金)	42%
4. 金属工芸(鋳金)	31%
5. 染織(織)	33%
6. 染織(染織)	33%
7. 窯芸(ガラス)	53%
8. 窯芸(陶芸)	51%
9. 絵画	58%
10. グラフィックデザイン	67%
11. 映像デザイン	49%
12. パッケージデザイン	36%
13. イラストレーション	44%
14. 平面構成	13%
15. ウェブデザイン	65%
16. インテリア・建築デザイン	67%
17. 建築史・意匠	24%
18. デザイン計画	33%
19. プロダクトデザイン	58%
20. 公共デザイン	47%



秋田県外

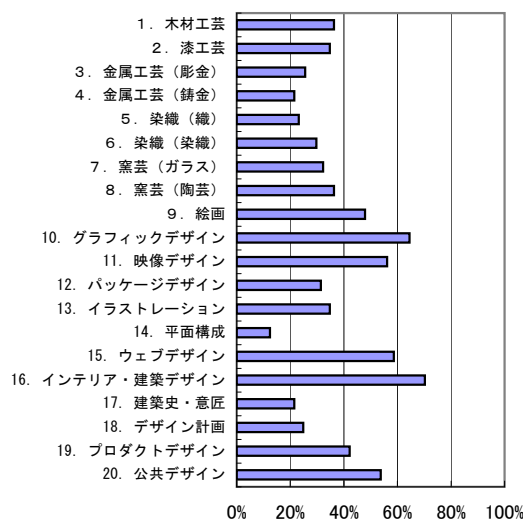
	支持数
1. 木材工芸	34%
2. 漆工芸	38%
3. 金属工芸 (彫金)	27%
4. 金属工芸 (鋳金)	24%
5. 染織 (織)	24%
6. 染織 (染織)	33%
7. 窯芸 (ガラス)	36%
8. 窯芸 (陶芸)	36%
9. 絵画	53%
10. グラフィックデザイン	70%
11. 映像デザイン	64%
12. パッケージデザイン	32%
13. イラストレーション	36%
14. 平面構成	14%
15. ウェブデザイン	59%
16. インテリア・建築デザイン	74%
17. 建築史・意匠	22%
18. デザイン計画	26%
19. プロダクトデザイン	49%
20. 公共デザイン	51%



(3) : 回答教員属性別集計

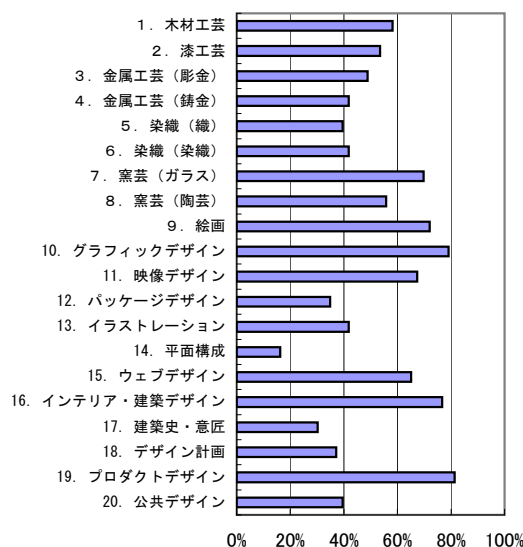
進路指導教諭

	支持数
1. 木材工芸	36%
2. 漆工芸	35%
3. 金属工芸 (彫金)	26%
4. 金属工芸 (鋳金)	21%
5. 染織 (織)	23%
6. 染織 (染織)	30%
7. 窯芸 (ガラス)	32%
8. 窯芸 (陶芸)	36%
9. 絵画	48%
10. グラフィックデザイン	64%
11. 映像デザイン	56%
12. パッケージデザイン	31%
13. イラストレーション	35%
14. 平面構成	12%
15. ウェブデザイン	59%
16. インテリア・建築デザイン	70%
17. 建築史・意匠	21%
18. デザイン計画	25%
19. プロダクトデザイン	42%
20. 公共デザイン	54%



美術教諭

	支持数
1. 木材工芸	58%
2. 漆工芸	53%
3. 金属工芸 (彫金)	49%
4. 金属工芸 (鋳金)	42%
5. 染織 (織)	40%
6. 染織 (染織)	42%
7. 窯芸 (ガラス)	70%
8. 窯芸 (陶芸)	56%
9. 絵画	72%
10. グラフィックデザイン	79%
11. 映像デザイン	67%
12. パッケージデザイン	35%
13. イラストレーション	42%
14. 平面構成	16%
15. ウェブデザイン	65%
16. インテリア・建築デザイン	77%
17. 建築史・意匠	30%
18. デザイン計画	37%
19. プロダクトデザイン	81%
20. 公共デザイン	40%



**問22：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学に移行する場合、開学までに高等学校が必要とする情報は何か**

単純集計をみると、「4年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報」「4年制大学の学生募集や入学試験の情報」が83%を占めており、次いで「4年制大学で取得できる資格等の情報」が76%を占めている。

進学率別でみると、単純集計と同じ傾向を示すものの、就職校では「4年制大学への3年次編入の情報」が40%を占めている。

**(1)：単純集計**

	回答数	割合
1. 4年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報	134	83%
2. 4年制大学で取得できる資格等の情報	123	76%
3. 4年制大学の学生募集や入学試験の情報	135	83%
4. 4年制大学への3年次編入の情報	59	36%
5. 4年制大学の教授陣の情報	56	35%
6. その他	10	6%

**(2)：進学率別集計**

	進学校	普通校	就職校
1. 4年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報	85%	79%	83%
2. 4年制大学で取得できる資格等の情報	74%	81%	74%
3. 4年制大学の学生募集や入学試験の情報	83%	86%	80%
4. 4年制大学への3年次編入の情報	36%	35%	40%
5. 4年制大学の教授陣の情報	35%	40%	29%
6. その他	6%	2%	11%

**(3)：その他コメント**

回答内容
①4年制になる良い点について。生徒にとってのメリット
②2年制の時とどこが違うかアピールポイントを！！
Web上でのリアルタイムな情報
学費
学費全般・寮等学生が増えることへの対応
学費と生活
就職支援プログラムの内容
卒業後の進路先等
短大から4年制になることで就職（求人）の枠は増えてくるのか？
予想される就職先

**(4)：欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）**

回答内容
短大が完全になくなるのかどうか、今までのような推薦の形をとるのか（受験の形）

問23：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、高等学校が受験希望者のために大学に求めることは何ですか。

単純集計をみると、「出張進学説明会」が69%を占めており、次いで「デッサン講習会」が41%を占めている。

地域別でみると、秋田県では「出張進学説明会」が64%を占めており、次いで「デッサン講習会」が56%を占めている。秋田県外では「出張進学説明会」が72%を占めており、次いで「デッサン講習会」が34%を占めている。

回答教諭属性別でみると、美術教諭では、「出張進学説明会」が79%を占めており、次いで「出張授業」が47%を占めている。

受験希望者に対する支援として、「出張進学説明会」を求めている高校が多く69%を占めている。特に、地域別で秋田県外に着目すると、高校の72%が希望している。

(1)：単純集計

	回答数	割合
1. 出張進学説明会	112	69%
2. デッサン講習会	67	41%
3. デザイン（平面構成等）講習会	52	32%
4. 出張授業	52	32%
5. その他	8	5%

(2)：地域別集計

	秋田県	秋田県外
1. 出張進学説明会	64%	72%
2. デッサン講習会	56%	34%
3. デザイン（平面構成等）講習会	44%	26%
4. 出張授業	36%	30%
5. その他	7%	4%

(3)：回答教員属性別集計

	進路指導 教諭	美術 教諭
1. 出張進学説明会	62%	79%
2. デッサン講習会	39%	37%
3. デザイン（平面構成等）講習会	30%	30%
4. 出張授業	25%	47%
5. その他	2%	12%

(4)：その他コメント

回答内容
オープンキャンパス（送迎付き）
芸大美大の併願先になれるような受験科目と受験日程の設定
高教研美術部会が短大で行っている実技講習会などを引き続き協力的に行って頂くこと
進学説明会（出張不要）
生徒自らが調べられる態勢、ネット上の情報公開等
人間交流（高・大の連携による）
志望者がいないので特に求めません
送迎バス等

(5)：欄外（その他をチェックしていないが空欄にコメントを記載しているもの）

回答内容
1は出張ではなく大学内でも良い。4は出張ではなく大学内や他の施設でも良い
オープンキャンパス
高等学校との交流
志望する生徒のため
専門外なので詳しくは判りませんが合格に必要なスキルが確認できれば良いと思います
多面的評価によるAO入試
東北芸工大さんの授業は何度か受けました



**問24：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、教職・学芸員の資格を取得できる方が学生にとって好ましいと考えますか。**

単純集計では、「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせて、95%を占め、4年制大学化により、教職・学芸員の資格取得を希望する回答が圧倒的に多い。

**(1)：単純集計**

	回答数	割合
1. 好ましい	123	76%
2. どちらかといえば好ましい	31	19%
3. どちらでもない	6	4%
4. どちらかといえば好ましくない	1	1%
5. 好ましくない	0	0%

**問25：平成25年4月開学を目処とする4年制大学への移行に対する意見**

肯定的評価の記述が、記述回答の72%を占めている。一方、否定的な評価は、全体の7%である。多くの記述が好意的な内容となっている。

主な意見として、「芸術系の国公立大学が東北にできることに対して期待をしている」記述が多く見られた。「大学自体が増えることによる進路先の選択肢の増加」、そして、「学費の安い4年制大学ができることなどが評価」されている。また、4年制大学になることにより、「時間をかけて十分な知識や技術を身につけられる」ことなどが期待されている。

「開学時期についても、早期開学を望む」記載が多く、平成25年4月開学を目処についても好意的に受け止められている。

要望事項を「開学時期に関する記述」「入試・カリキュラム等に関する記述」「就職に関する記述」「情報提供・情報発信に関する記述」「地域貢献に関する記述」「経済的に関する記述」に分類整理を行った。

「開学時期に関する記述」では、早期実現を要望する記述がみられた。

「入試・カリキュラム等に関する記述」では、入試に関して、入試難易度が上がることによる地元学生の入学が難しくなることの懸念。芸大などの入試等への配慮などを求める記述が記載されていた。運営体制については、短大の機能も併存することを要望する記述がある。また、カリキュラムについて、周辺の美術学校との差別化を明確にするなどの要望が記載されていた。

「就職に関する記述」では、卒業生の就職先の確保に関する要望等が記載されている。特に、4年制化によって短大と比べて何が有利になるのかを示す要望などがあった。

「情報提供・情報発信に関する記述」では、他大との違いを明確にアピールしてほしいとの要望が記載されている。また、就職・進路の情報や入試情報などの速やかな発信などが要望として記載されている。

「地域貢献に関する記述」では、地域の産業界などの連携を求める記述がみられる。また、就職や進路先への受け皿がないことによる人材の県外流出などの懸念等の記載がある。

**(1)：記述からみる評価の整理**

	回答数	割合
1. 肯定的評価	82	72%
2. 否定的評価	8	7%
3. 中立的意見	24	21%
4. 無回答	48	-

**(2)：記述からみる要望の整理**

	回答数
1. 懸念 合計数	74
開学時期に関する記述	16
入試・カリキュラム等に関する記述	21
就職に関する記述	6
情報提供・情報発信に関する記述	16
地域貢献に関する記述	10
経済的な問題に関する記述	5

**問26 : 秋田公立美術短期大学が4年制大学になることに対する意見**

肯定的評価の記述が、記述回答の56%を占めている。一方、否定的な評価は、全体の6%を占めている。

美術系を志望する学生にとって、公立の美術大学が身近にできることを大きなメリットとして評価する記述が多く見られた。また、4年制大学になることによりカリキュラムが充実する期待などが記載されている。他県の高校の中には、推薦枠を希望する学校も見られた。同様に今後、受験生に推薦したいという記載も見られた。

4年制大学になることによって短期大学以上に地域貢献を果たすことを期待する記述も見られた。大学と地域の企業が連携して、地元の人材を根付かせるなどの仕組みなどを提案する記載などもある。大学のみならず、大学院まで設置できないかという提案も見られる。

記述項目の中の要望事項を「入試・カリキュラム等に関する記述」「就職に関する記述」「情報提供・情報発信に関する記述」「地域貢献に関する記述」「経済的に関する記述」に分類整理を行った。

「入試・カリキュラム等に関する記述」では、入試に関して、芸大などの美術大学と同じような水準の入試を求める記述などがあつた。カリキュラムについては、就職などの進路の確保も見据えた内容を求める記述が多くみられる。また、他大との差別化を要望する記載などもみられる。

「就職に関する記述」では、4年制化によってもたらされるメリットを示してほしいという要望が記載されている。また、人材が県外へ流出することへの要望等が記載されている。

「情報提供・情報発信に関する記述」では、人材育成や進路の方向性、出口の確保の方針などを示してほしいという要望が多く寄せられている。また、周辺大学や、高校、企業等との連携などを求める記載がある。

「地域貢献に関する記述」では、前述のような地域連携とともに、地元企業との産学連携などのコーディネートなどを要望する記載とともに、県内の受験生に対する配慮や、県内の進学者に対する経済的支援の要望等の記載がある。

**(1) : 記述からみる評価の整理**

	回答数	割合
1. 肯定的評価	53	56%
2. 否定的評価	6	6%
3. 中立的意見	35	37%
4. 無回答	68	-

**(2) : 記述からみる要望の整理**

	回答数
1. 懸念	
合計数	73
入試・カリキュラム等に関する記述	21
就職に関する記述	16
情報提供・情報発信に関する記述	11
地域貢献に関する記述	12
経済的な問題に関する記述	13

## 3-1. 調査結果の総括

---

### (1). アンケート調査結果の総括

#### 0). クロス集計の概要

本アンケートでは、単純集計とともに次の分類項目でクロス集計を行った。

##### ①進学率別集計

問2における高校の進学希望者数を基に、アンケートを回答した高校を、進学校、普通校、就職校に分類し集計を行った。

- ・進学校：3年生のうち、進学希望者数の割合が80%以上を占める学校
- ・普通校：3年生のうち、進学希望者数の割合が50%以上80%未満を占める学校
- ・就職校：3年生のうち、進学希望者数の割合が50%未満の学校

##### ②地域別集計

回答した高校を所在地ごとに分類し、集計を行った。

- ・秋田県：秋田県に所在する高校
- ・秋田県外：秋田県以外の道県に所在する高校

##### ③回答教員属性別集計

アンケートを回答している教員の種別に応じて集計を行った。

- ・進路指導教諭
- ・美術教諭

#### 1). アンケートの調査結果総括：高校の進路全般に関して（アンケート問1～問7）

##### 問1：御校の生徒数を教えてください

各校の生徒数の規模は、各学年200人程度である。最大規模は1年生492人、2年生458人、3年生604人であり、最小規模は、1年生23人、2年生24人、3年生18人という結果となった。

学校規模別で分類すると全学生数が600人を超える高校が76校、300人以上600人未満の高校が65校、300人未満の高校が20校となっている。

各学年間の生徒数の差をみると、全体の平均でも、学校規模別の集計でも、1年生の生徒が最も多く、2年生になると学生数が少なくなっている。

##### 問2. 3年生で進学を希望する生徒と就職を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください

進学希望者数の平均をみると、3年生の生徒のうち72%が進学希望、27%の生徒が就職希望となっている。

また、進学率別のクロス集計で見ると、回答数162校の内、84校が進学校となっており、本学に入学実績のある高校の内、過半数が進学校からの入学であることが分かる。

---

**問3：進学を希望する生徒は今後どうなると考えますか。（1つ選んでください）**

進学希望する生徒の動向について、普通校では過半数の高校で増加すると考えている。また、進学校、就職校でも3割強の高校で進学希望の生徒が増加するという見通しを持っている。今後は、多くの高校で、進学を希望する生徒数は増加するという見通しであると考えられる。

**問4：進学希望者の中で、4年制大学、短期大学及び専門学校を希望する生徒の割合をパーセンテージでお答えください。**

進学を希望する生徒は、過半数が4年制大学を希望し、4割程度が専門学校を希望している。なお、短大を希望する生徒の割合は非常に少なく1割程度である。

**問5：進学先を希望する生徒の理由は何だと考えますか。（それぞれ最大2つまで選択）**

4年制大学、短期大学、専門学校では、進路を希望する理由が異なることが読み取れる。4年制大学を希望する生徒は「専門知識を身につける」「資格の取得」を重視していると考えられる。短期大学では、同じ項目の割合は高いものの、「地元にあること」「学費の安さ」も大きな要素であると考えられる。また、専門学校は「資格の取得」を際立って重視していると考えられる。

短期大学は、比較的、「地元志向」や「安価な学費」を重視して希望する生徒が多く、「専門知識の取得」や「卒業後の就職」については、あまり重視されていないと判断される。

**問6：それぞれの進学先を希望する生徒は、今後どうなると考えますか**

多くの高校が4年制大学を希望する生徒が増加するという見通しを持っている。

また、短期大学を希望する生徒は、減少すると考えている。特に、進学校ではその傾向が顕著である。

**問7：それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向をお教えてください**

4年制大学を希望する生徒や専門学校を希望する生徒は、地元志向にこだわらない傾向が強い。特に秋田県内の高校ではその傾向が強く出ている。

短期大学を希望する生徒は、秋田県内、秋田県外共に、地元志向が強い。

---

**2). アンケートの調査結果総括：美術系の4年制大学や短期大学を希望する生徒の動向と見直し(アンケート問8～問11)**

**問8：美術系の4年制大学や短期大学への入学実績を、昨年度と一昨年度で記入してください及び**

**問9：美術系の4年制大学や短期大学を希望する生徒は、3年生で何人いますか。**

美術系4年制大学への入学実績校は、全体ではほぼ横ばいであるが、美術系短期大学への入学実績校は減少する傾向を示している。

秋田県における美術系4年制大学への入学実績校は、増加傾向にある。

美術系4年制大学及び美術系短期大学への入学実績校の過半数は進学校で占められており、また、その入学者数の割合も、進学校が大部分を占めている。

**問10：美術系の4年制大学や短期大学を生徒に薦める際、重視することは何ですか。(最大2つを選択)**

「生徒が希望する分野・コースなどがある」が美術系の4年制大学や短期大学の進路の選択において重要な要素となっている。

また、その他の記述から、奨学金制度や編入制度についても重要な要素になると思われる。

**問11. それぞれの進学先を希望する生徒の志望校の傾向を教えてください**

美術系の4年制大学を希望する生徒は、一般の4年制大学希望者と同様に、地元志向にこだわらない傾向がある。一方、美術系短期大学を希望する生徒は地元・近県の学校を希望する傾向が強い。

現在、東北・北海道に所在する美術系の大学の学校が少ないため、志望先の大学の所在地にこだわらない傾向があると考えられる。ただし、美術系4年制大学への希望者のうち43%は「北海道・東北志望」としているため、4年制大学でも一定の近県志望があると考えられる。また、問25や問26の「本学の4年制大学化に関する自由記述」の質問においても、公立の美術大学ができることに対して賛同する記述が非常に多いことから、本学の4年制大学化へのニーズは高いと考えられる。

### 3). 本学が4年制大学化を進めていくことに対する評価と意見(アンケート問12~問26)

#### 問12: 秋田公立美術短期大学に対する評価について伺います。

学費の安さが大きな評価を得ている一方で、就職実績については高い評価を得られていない。また、美術教諭における本学の認知と評価は高いものの、進路指導教諭の認知は必ずしも高いものではない。

問10の美術系4年制大学などへの進路を薦める際に重視する点において、「生徒が希望する分野・コース等がある」という項目が45%と最も大きい割合を占めていることと、進路指導教諭の認知度の低さとの差を、4年制大学化の検討を通して埋めていくことが今後の課題の一つとなると考えられる。

#### 問13: 秋田公立美術短期大学を美術系志望の生徒に薦める際、志望校としての位置付けを教えてください。(最大2つを選択)

本学は、志望校としては薦められる短期大学として位置づけられているが、第一志望よりも併願校としての性格が強い。

問4では、短期大学への進学希望者の割合が低いことが示され、問6では、進学の希望者の見通しでも減少が見込まれている。これらの点から、高校卒業後の進路先として、短期大学は積極的な選択肢として取り上げられていないと考えられる。

#### 問14: 秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になることは、受験生にとって好ましいと考えますか

本学の4年制大学化を「好ましい」と評価する割合が66%を占め、「好ましくない」の10%を大きく上回っている。特に、美術系大学の進学者の大多数を占める進学校の中での割合は79%を占めている。

#### 問15: 問14の回答で「好ましい」「どちらかといえば好ましい」と回答した理由(最大2つを選択)

「4年制大学の選択肢が増えること」と「授業料の安い国公立大学が増えること」が大きなメリットとして認識されている。

現在、東北・北海道における国公立の美術系4年制大学は、1校しかなく、本学が4年制大学になることの意義は大きい。問25や問26の自由記入においても、4年制大学化に対する好意的な意見や、期待が綴られた内容が大半となっている。

#### 問16: 問14の回答で「好ましくない」「どちらかといえば好ましくない」と回答した理由(最大2つを選択)

「経済的な負担の増加」が4年制大学化の一番のデメリットとして挙げられている。

短期大学への進学を希望する生徒からみた「経済的な負担の増加」に対する懸念の一方で、4年制大学への進学を希望する生徒からみると、国公立の4年制大学が地元のできることで「経済的な負担が軽減」される。問6では4年制大学の希望者は今後増えるという見通しを持った高校が多いことを配慮すると、4年制大学化は多くの生徒にメリットがあると言える。

**問 17：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になることによる、受験を希望する生徒数の見通しについて**

過半数の56%の高校で、受験を希望する生徒数は増加すると考えている。地域別でも、秋田県で49%、秋田県外でも59%の高校が、受験を希望する生徒数が増加すると考えている。

**問 18：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、美術系志望の生徒に薦める際の志望校としての位置付け（最大2つを選択）**

第一志望や併願校に薦めたいという割合が短大時の58%から63%に増加している。4年制大学になることにより、短大時の位置づけに比べ、「第一志望として進めたい大学」が5ポイント上回っている。特に進学校では、11ポイント増加している。秋田県内においても、短大時の位置づけに比べて「第一志望として薦めたい大学」が10ポイント上回っている。

**問 19：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、生徒に身につけさせたい知識や能力は何ですか。（最大2つを選択）**

4年制大学化になることで「専門的な知識・技術」「創造力・デザイン力」の育成を期待している教諭が多い。

問15の記入欄には、「2年では短い」「4年制になる事でより多くの資格が取れると思うので」などをはじめ、4年制大学になる事によって、短大の倍の修業時間が得られ、より専門的な知識・技術を習得できることに期待を寄せている。

**問 20：秋田公立美術短期大学が4年制大学になった場合、大学に望むものは何ですか（最大2つを選択）**

4年制大学化に向けて、「優れたカリキュラム」と「就職支援体制」をつくることが求められている。

**問 21：秋田公立美術短期大学での最もニーズがあると思われるコースと分野**

全体では、「ウェブデザイン」「インテリア・建築デザイン」などのニーズがあると認識されている。美術教諭では、「プロダクトデザイン」が最もニーズがあると認識されている。

**問 22：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学に移行する場合、開学までに高等学校が必要とする情報は何か**

単純集計をみると、「4年制大学の基本理念や学科、カリキュラムの情報」「4年制大学の学生募集や入学試験の情報」が83%を占めており、次いで「4年制大学で取得できる資格等の情報」が76%を占めている。

**問 23：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、高等学校が受験希望者のために大学に求めることは何か。**

受験希望者に対する支援として、「出張進学説明会」を求めている高校が多く69%を占めている。特に、地域別で秋田県外に着目すると、高校の72%が希望している。

---

問5の結果より、進学校、普通校、職業校のそれぞれに進学する生徒の理由が異なることから、それぞれの高校の特性に合わせた、出張進学説明会を行うことが有効であると考えられる。

**問24：秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学になった場合、教職・学芸員の資格を取得できる方が学生にとって好ましいと考えますか。**

「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が合わせて、95%を占めている。

4年制大学化により、教職・学芸員資格の取得を求める回答が圧倒的であり、問5の「進学先を希望する生徒の理由」と照らし合わせても、4年制化による資格の取得は必須であると判断される。

**問25：平成25年4月開学を目処とする4年制大学への移行に対する意見**

肯定的評価の記述が、記述回答の72%を占めている。一方、否定的な評価は、全体の7%であり、多くの記述が好意的な内容となっている。

開学時期については、「早期開学を望む」記載が多く、平成25年4月開学の目処についても好意的に受け止められている。

また、主な意見として、「芸術系の国公立大学が東北にできることに対して期待をしている」記述が多く見られた。「大学自体が増えることによる進路先の選択肢の増加」、そして、「学費の安い4年制大学ができること」などが評価されている。また、「4年制大学になることにより、時間をかけて十分な知識や技術を身につけられること」などが期待されている。

**問26：秋田公立美術短期大学が4年制大学になることに対する意見**

肯定的評価の記述が、記述回答の56%を占めている。一方、否定的な評価は、全体の6%である。

美術系を志望する学生にとって、「公立の美術大学が身近にできることを大きなメリットとして評価する」記述が多く見られた。また、「4年制大学になることによりカリキュラムが充実することに期待する」などが記載されている。「他県の高校の中には、推薦枠を希望する」学校も見られた。同様に今後、「受験生に推薦したい」という記載も見られた。

4年制大学になることによって「短期大学以上に地域貢献を果たすことを期待する」記述も見られた。「大学と地域の企業が連携して、地元の人材を根付かせるなどの仕組みなどを提案する」記載などもある。大学のみならず、「大学院まで設置」できないかという提案も見られた。

---



## (2). アンケート調査結果に基づく考察

アンケートの問 14 の「秋田公立美術短期大学が 4 年制大学になることは、受験生にとって好ましいと考えますか」に対し、「好ましい」(35%)、「どちらかといえば好ましい」(31%)と、回答の内 66%の高等学校が、4 年制化への取り組みについて好意的な評価を行っている。

また、自由記述の設問である問 25 の「平成 25 年 4 月開学を目処とする 4 年制大学への移行に対する意見」では 82 件の肯定的な回答が得られ、問 26 の「4 年制大学になることに対する意見」でも 53 件の肯定的な回答が得られており、かつ、早期開学を求める要望も多く、本学の 4 年制大学化への関心や期待は非常に高いものと考えられる。

これらの期待感が顕著になっている一方で、4 年制化の実現に向けて、また実現後の周辺環境の動向も見据えながら検討を重ねるためにも、その論点を整理しておく必要がある。

### 1). 高校の特性から考察されること

今回のアンケート調査では、進学率の割合から、回答した高校を進学校（進学率 80%以上）、普通校（50%以上 80%未満）、就職校（50%未満）という分類を行い、分析を進めた。美術系大学及び短大の今年度志望者を含めた過去 2 年間の実績をみると、美術系大学の進学者の 80%以上、美術系短期大学の 60%近くが進学校からの生徒であることが明らかになった。また、問 4 の「進学希望者それぞれのパーセンテージ」では大学、短期大学、専門学校の各分野への進学希望の割合等から、普通校及び就職校では、4 年制大学を志望校に選ぶことよりも、卒業後直ぐ就職に結びつくような進路を希望する傾向があることが分かった。一部の大学及び短大側も各種学校的で資格が取れることを PR するところもある。

問 5 の「進学先を希望する理由」をみると、大学、短期大学、専門学校などを志望する生徒の具体的な目的は、各分野で、かなり違いがある。

これらから、進学校の生徒、普通校の生徒、就職校の生徒の進路進学を選ぶ土台に違いがあることが伺える。具体的には、普通校や就職校の生徒は、直接卒業後の進路や就職に結びつくスキルを求める傾向があるが、進学校では「知的好奇心」に代表される教養を身につけることを期待して進学先を選ぶ傾向が強いと考えられる。

大学・短大は、どのような生徒をターゲットとして学生を募集するかによって学科のカリキュラムなどに大きな違いが生じることが推察される。

### 2). 4 年制大学化による地域貢献の考え方

アンケートでは、4 年制大学化が歓迎される一方で、地元学生に対して入学の配慮などの要望なども自由記入欄に記載されている。しかし、美術系の高等教育機関に限った場合、秋田県内の高等学校から美術系大学や美術系短期大学へ進学する進学実績（問 8 及び問 9）は、秋田県外からの進学実績と比べて、短期大学では同程度であるものの、4 年制大学では少なくなっている。むしろ、近県を含めた周辺からの生徒が、当学の 4 年生大学化に対する期待を持っていると考えられる。近隣県の進学校の生徒が当学を希望することによって、受験者数が増加することが期待される。

このことは、今後の人口推計における若年層の減少や大都市への流出に対する歯止めと、大学が立地する地域への貢献の足がかりとして極めて重要である。美術系をはじめとしたクリエイティブな分野の人材を輩出する地域は、都市の魅力や地域の魅力の情報発信をする核として機能し、またそこに集まる交流人口の増加を促すことにもなる。

そして、近県から集まる生徒を、地元で根付かせる事ができれば、人口減少によって生じる地元地域の経済活動の停滞や衰退を抑えるとともに、地域の情報発信力と魅

力を高める効果も生まれるであろう。そのためには、地元への就職や進路先を整備する準備を早期から行う必要がある。いわゆる、「入口」もそうだが「出口」の整備である。

例えば、横浜市がクリエイティブシティ（文化芸術創造都市）を2006年頃から始動したのに呼応するように「横浜美術短期大学」が学生募集を停止し、2010年4月1日から4年制の「横浜美術大学」として生まれ変わったことに注目せざるを得ない。

### **3). 美術系大学に対する認知度について**

問12の当学の評価からも伺えるとおおり、地域の中で大学の活動や理念がうまく情報発信されていないように思える。回答教諭属性別による分析では、進路指導教諭の場合、多くの項目で「わからない」が選択されており、当学の特性や、基本的な情報が伝わっていないことが明らかとなっている。

問25及び問26の自由回答欄では、地域ぐるみの情報発信なども要望として上げられており、地域貢献、産学連携等と関連した複合的な情報発信を行う必要がある。

---

平成23年2月16日

秋田市長

穂積 志 様

要 望 書

秋田公立美術工芸短期大学の四年制大学化の実現について

秋田県高等学校長協会

会 長 菊 谷



秋田公立美術工芸短期大学は、創立以来広く地域に開かれた大学として、多様化する生涯学習のニーズに対応しながら特色ある社会貢献活動を展開するなど、その活動の成果は高く評価されているところでもあります。また、高大連携講座やプロフェッショナルの活用、美術系大学進学実技講習会への支援等をとおして、県内高等学校の芸術教育に対してご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、近年18歳人口は減少しているものの、高学歴志向に伴い四年制大学への進学を希望する高校生の割合は年々増加する傾向にあります。しかし、美術系大学を志願する高校生にとって、東北地方には公立の四年制大学がないことから、首都圏の大学への進学を余儀なくされ家庭の経済的な負担も大きくなっております。

このような状況の中で、秋田公立美術工芸短期大学の教育内容をさらに充実させ、より豊かな教養と深い専門性を身につけた人材の育成を目指して公立の美術系四年制大学にすることは、県内外の受験希望者の増大につながっていくものと思われまます。そして、秋田の伝統や文化を生かし発展させる大学、新しい芸術領域を創造し挑戦する大学、秋田から世界へ発信するグローバルな人材を育成する大学、まちづくりに貢献し地域社会とともに歩む大学としての魅力を名実ともに高めることによって、他の大学に負けない競争力を備えていくものと考えます。

さらに学生の集う秋田市は、教育立県を掲げる本県のイメージを一層高め、芸術・文化を生かしたまちづくりをとおして、都市イメージを向上させることにもつながっていくものと確信します。

以上のことから、2013年度の秋田公立美術工芸短期大学の四年制大学化を実現されるよう強く要望いたします。

## 美短卒業生の進路状況および就職内定状況

(平成23年4月30日現在)

## (1) 進路希望調査状況

(単位；人)

学生区分	学 科	卒業者数	就 職 希望者	専攻科	他大学等	一時的な 就職希望者	その他 (未定含む)
本 科 生	工 芸 美 術	59	38	10	5	2	4
	産業デザイン	76	58	7	11	—	—
	小 計	135	96	17	16	2	4
		(100.0%)	(71.1%)	(12.6%)	(11.8%)	(1.5%)	(3.0%)
専攻科生	工芸美術	11	7	—	4	—	—
	産業デザイン	8	8	—	—	—	—
	小 計	19	15	—	4	—	—
		(100.0%)	(78.9%)	(0%)	(21.1%)	(0%)	(0%)
合 計		154	111	17	20	2	4
		(100.0%)	(72.1%)	(11.0%)	(13.0%)	(1.3%)	(2.6%)
再 計		154	148名 (96.1%)			6名 (3.9%)	

## (2) 学科別就職内定状況

(単位；人)

学 科	学生区分	就 職 希望者	就職者	内定率
工 芸 美 術	本 科 生	38	24	63.2%
	専攻科生	7	6	85.7%
	計	45	30	66.7%
産業デザイン	本 科 生	58	43	74.1%
	専攻科生	8	7	87.5%
	計	66	50	75.6%
合 計		111	80	72.1%

※就職者80人のうち、正規雇用39人・非正規雇用41人

## (3) 年度別進路状況

(単位；人)

年 度	卒 業 ・ 修了者数	就 職				進 学		その他
		希望者	決定者	未定者	就職率	本 学 専攻科	他大学等	
平成22年度	154	111	80	31	72.1%	17	20	6
平成21年度	154	101	72	29	71.3%	17	21	15
平成20年度	170	91	71	20	78.0%	15	28	36
平成19年度	151	69	60	9	87.0%	24	19	39
平成18年度	152	80	72	8	90.0%	15	14	43
平成17年度	160	77	72	5	93.5%	12	22	49

**(4) 年度別正規・非正規就職状況**

(単位；人)

年 度	正規 就職者数	非正規 就職者数	合計	正規 就職者の割合	非正規 就職者の割合
平成22年度	39	41	80	48.8%	51.3%
平成21年度	37	35	72	51.4%	48.6%
平成20年度	44	27	71	62.0%	38.0%
平成19年度	41	19	60	68.3%	31.7%